

令和3年度
事業報告書

社会福祉法人スキーム福祉の会

令和3年度事業報告書

I. 総括

令和3年度につきましては、前年度に引き続き、施設内での新型コロナウイルス感染を未然に防止するべく、感染防止対策を徹底して参りましたが、5月に施設内クラスター（集団感染）を発生させてしまい、関係する方々に多大なご心配とご迷惑をお掛けしてしまいました。

当施設はこの出来事を教訓に、更なる感染予防対策の強化・見直しを図り、施設内での各種研修、委員会、会議、行事活動等については3密を出来る限り防止する観点から感染防止策を徹底した上で最低限での実施としました。また、ご家族等の面会においてはオンライン面会を行うなど工夫をしながらの実施としました。更に在宅サービスの提供については、感染のリスクを出来るだけ回避するため、感染が少しでも疑われる場合にはご利用を検討させて頂いたり、職員についても出勤を停止させる等、極めて厳しい制限を設けました。その結果、クラスター発生後からは施設内感染を発生させることはありませんでしたがその反面、ご利用者様に対しては満足のいくサービス提供は実施出来なかったと思ひますし、職員のストレスも大きかったと思ひます。稼働率につきましても厳しい制限が影響し、短期入所生活介護及び通所介護は年間の目標値を大幅に下回る結果となりました。特別養護老人ホームにつきましては従来型は目標値を大きく上回る事が出来ましたが、ユニット型は目標値を若干下回る結果となりました。来年度につきましては、感染予防に注意しつつ、稼働率の向上に向けても尽力して参りたいと思ひます。

令和3年度の重点取組5項目について以下報告します。

1. サービスの質の向上

ご利用者の状況をお一人おひとり詳細に把握し、その情報を他職種間で共有することにより、ニーズに沿ったサービスを提供をすることが出来ました。また、コロナ禍によりスキルアップのための各種研修に参加が出来ない期間が続きましたが、オンラインによる研修への参加を促し、知識の向上を図ることで業務に活かすことが出来ました。

2. 経営の安定

ご利用者の体調管理を図り、関係職種との連携をしっかりと共有することにより、入院者数を減少させることが出来ました。このことにより、入所部門では新型コロナウイルスの影響により、一時期は稼働率を低下させてしまいましたが、最終結果としては年間の目標値に近づけることが出来ました。在宅部門につきましては、新型コロナウイルスの影響により稼働率を回復させることができず、前年と比較して大幅に下回る結果となってしまいました。

3. 組織の活性化

特養部門、在宅部門ともに業務改善に力を注ぎ、業務の効率化を図ることでご利用者と関わる時間を増加させることが出来ました。また、在宅部門においては役職者を新たに据えることでチームとしてのケアを確立し、職員間の認識のズレを解消し、意識と業務の標準化を図ることが出来ました。

4. リスクマネジメント

新型コロナウイルスの感染防止対策を徹底し、ご利用者の体調管理や職員への注意喚起をしっかりと行った結果、施設内感染の発生を防ぐことができました。また、介護事故等については、事業所毎にヒヤリハットの活用とその改善策の実施を徹底した結果、前年度に比べて重大な事故を大幅に減らすことが出来ました。

5. 防災対策

昼間・夜間を想定した訓練を行いました。職員は避難誘導や救助活動のポイントを理解しながら適切な訓練が行えました。また、非常放送設備や発電機の使用方法を学び、有事の際に対応出来る知識を身につけることが出来ました。

6. 地域貢献（地域交流・貢献委員会）

ふくしネット総社事業部会の取り組みとしてフードドライブをコープ総社東店において実施しました。10月23日には事業部会メンバーの職員1人が、当日の役員として参加しました。また、同じくふくしネット総社事業部会の新たな取り組みとしてフードドライブにて寄付していただいた食品を担当地区で食糧支援の必要な方に提供するフードパントリー事業にも参加を致しました。コロナ禍の中これまでのような地域の方をお招きしての催しは難しく、地域交流事業については引き続きどのような形で行えるか検討をして参ります。

II. 職員構成等

(令和4年3月31日現在)

事業所名	職種	員数
特別養護老人ホーム	施設長	1名（ケアハウス施設長兼務）
	生活相談員	2名（内ショートステイ1名）
	特養部長	1名
	機能訓練指導員	1名
	看護職員	7名（内パート4名）
	介護職員	46名（内パート4名）
	管理栄養士	1名
	介護支援専門員	1名
	用務員	1名
デイサービスセンター	在宅部長	1名
	在宅課長	1名
	管理者	1名（兼務 1名 生活相談員）
	生活相談員	2名（兼務 2名）
	看護職員	2名（兼務 2名 機能訓練指導員）（内パート1名）
	機能訓練指導員	2名（兼務 2名 看護職員）

	介護職員	8名（内パート3名）
居宅介護支援事業所	ケアマネジャー	2名（兼務 1名 管理者）
ケアハウス	管理者 生活相談員 介護職員	1名（特養施設長兼務） 1名 2名（内パート1名）
地域包括支援センター	主任介護支援専門員 看護師 社会福祉士 支援計画担当者	1名 1名 1名（管理者兼務） 3名
全事業所兼務	事務員	2名（全事業所共通）

在職職員の資格取得状況（取得者数は重複含む）

資格名	取得者数	所属別			
施設長	2名	特養	2		
看護師	6名	特養	4	在宅	2
准看護師	4名	特養	3	在宅	1
介護福祉士	67名	特養	51	在宅	16
社会福祉士	10名	特養	2	在宅	8
作業療法士	1名	特養	1		
精神保健福祉士	2名			在宅	2
介護支援専門員	12名	特養	4	在宅	8
主任介護支援専門員	3名			在宅	3
社会福祉主事	25名	特養	14	在宅	11
管理栄養士	1名	特養	1		

Ⅲ. 社会福祉法人スキーム福祉の会 理事会・評議員会 開催状況

(理事会)

開催日	出席者	主な議決事項
R3.6.9	理事 6名 監事 2名	令和2年度事業報告について 令和2年度収入支出決算について 顧問の解職について 定時評議員会の日時・場所・議案等について
R3.6.25	理事 6名 監事 2名	特別養護老人ホームグリーンアンドドライバーホーム（従来型・ユニット型）運営規程の変更について 短期入所生活介護（従来型・ユニット型）運営規程の変更について

		理事長互選について
R3.9.22	理事 5名 監事 1名	定款（別表）基本財産（明細）の変更について 職員就業規則及び別表の一部変更について 職員給与規程の一部変更について パート職員就業規則の一部変更について 育児・介護休業に関する規則の一部変更について 令和3年度収入支出補正予算（案）について 評議員会の日時・場所・議案等について
R3.11.15	理事 6名 監事 1名	監事の選任候補者について 評議員選任候補者について 評議員会の日時・場所・議案等について
R4.3.15	書面決議 理事 6名 監事 2名	令和3年度第2次収入支出補正予算（案）について承認を 求めるもの 育児・介護休業等に関する規則の一部変更について承認を 求めるもの 職員給与規程の一部変更について承認を求めるもの パート職員就業規則の一部変更について承認を求めるもの 令和4年度事業計画（案）について承認を求めるもの 令和4年度収入支出予算（案）について承認を求めるもの 評議員会の日時・場所・議案等について承認を求めるもの

(評議員会)

開催日	出席者	主な議決事項
R3.6.25	評議員 7名 監事 2名	令和2年度事業報告について 令和2年度収入支出決算について 理事の選任について 監事の選任について
R3.9.30	評議員 7名	定款（別表）基本財産（明細）の変更について 令和3年度収入支出補正予算（案）について
R3.11.26	評議員 7名	監事の選任について
R4.3.25	評議員 7名	令和3年度第2次収入支出補正予算（案）について 令和4年度事業計画（案）について 令和4年度収入支出予算（案）について

IV. 事業所別報告

1. 管理・運営部門

1. 防災教育及び訓練

実施日	訓練内容
R3.7.23	昼間想定 通報、避難誘導、伝達訓練 防災監視盤・火災報知機の実施訓練
R3.10.19	夜間想定 通報、避難誘導、伝達訓練 防災監視盤・火災報知機の実施訓練

2. 職員研修

①施設内研修

研修月	研修名	出席者	講師等
4月	サービス規程 給与規定	88名 100%	資料配布
5月	感染症予防研修（食中毒）	88名 100%	堺管理栄養士
6月	身体拘束廃止研修①	88名 100%	資料配布
7月	事故防止研修①	74名 84%	各ユニット担当者
8月	防災研修	82名 93.2%	各ユニット担当者
9月	虐待防止研修	80名 90.9%	各ユニット担当者
10月	看取り研修	75名 85.2%	各ユニット担当者
11月	感染症予防研修②	70名 79.5%	各ユニット担当者
12月	褥瘡予防研修 身体拘束廃止研修②	73名 83%	各ユニット担当者
1月	事故防止研修②	78名 88.6%	各ユニット担当者
2月	認知症研修	88名 100%	資料配布

※施設内職員研修の平均出席率 91.3%

②施設外研修

全国・岡山県老施協・岡山県社協や各種団体が開催する各種研修会へ年間 33 回、延べ参加人数 61 名が参加致しました。今年度は新型コロナウイルスの影響により最低限の研修しか開催されず、参加回数は激減しました。

1. 特別養護老人ホーム（従来型）

従来型特養は稼働率目標 97.5%に対して 98.1%、ショートステイは稼働率目標 85.0%に対して 78.0%という実績で1年を終えました。従来型特養に関しては多職種連携による体調管理・情報共有の強化が図れた結果だと思えます。ショートステイに関しましてはコロナ禍での利用の制限が稼働率に大きく影響を与えたと感じています。今後につきましても感染対策を継続しながら稼働率向上に向けて尽力して参ります。

また日常生活においては丁寧で細やかな介護を実践し、行事などを通してご入居者に楽しく安全に過ごしていただくことが出来ました。

1. サービスの質の向上

〈ケアマネ・相談員〉

- ・ご入居者の生活歴や各職員が収集した情報を踏まえ、詳細なモニタリングやアセスメントを行うことで、個々に合わせたケアマネジメントに努めました。また、立案したケアプランを多職種で共有し、チームケアの実践に繋げることが出来ました。
- ・コロナ禍でもしっかりと感染対策を徹底し、対面やオンラインでご家族との面会を可能な限り実施することでご入居者にご家族との時間を共有していただくことが出来ました。
- ・ご入居者の状態変化に応じ、ご家族の意向も多職種間で共有・検討したことで、より個別的で適切なサービスが提供出来ました。
- ・ご入居者の尊厳を守るため虐待防止の研修を行い、顕在化しないグレーゾーンの対応や前兆である不適切ケアについて、職員が自ら気付くきっかけをつくることができました。

〈看護〉

- ・ご入居者お一人おひとりについて、ご家族の思い、他職種からの情報及び医師の治療方針等、看護職員が間に入り様々な情報を調整し、こまめに各関係者との連携を図ることで、ご本人やご家族が望まれる医療を提供することが出来ました。
- ・感染症を理解する上で書籍を資料とし、看護師間で勉強会を行いました。
- ・5月に新型コロナウイルス感染症のクラスターが発生しましたが、事前シュミレーションを行っていたこともあり、施設内感染は最小限に抑えることが出来ました。今後につきましては感染症マニュアルの見直し・検討を行うことで更なる感染予防に努めて参ります。
- ・パソコンでの申し送りを活用することで伝達ミスを減少させることが出来ました。
ショートステイにてにおいても担当の看護師より必要な情報をパソコン上で共有することで伝達不足の解消を図ることが出来ました。

〈介護〉

- ・コロナ禍で外出を自粛している中、テイクアウトで外食気分を味わったり、様々な行事を企画してご入居者に楽しみの提供を行うことができました。
- ・ご入居者の日々の様子の変化に合わせて随時、多職種間で相談を行い、ご入居者お一人おひとりに合ったケアを見直すことで介護の質の向上に努めました。
- ・ユニット会議等で、ケアする上での目的を再確認して修正を行い、目的と課題を設定することでチーム内で共通の目的意識を持ち、共通認識のもとサービス提供が行える環境作りに努めました。

〈栄養（給食）〉

- ・食事摂取基準をもとに、ご入居者の介護状態及び食事形態を分析・考慮の上、多職種・委託会社と連携しながら献立や食事形態の変更・改善を図ることで個別の対応を行うことが出来ました。
- ・新型コロナウイルス感染状況を考慮し、実施・中止を多職種間で相談し回数・場所の分散、3蜜を避ける方法を検討し、お花見弁当・ミニ夏祭り・クリスマス弁当・ぜんざい・お餅のふるまいなど可能な限り実施することが出来ました。
- ・大量調理施設衛生管理マニュアルに沿った衛生指導を徹底し食中毒を防止することが出来ました。

〈機能訓練〉

- ・自立支援を念頭においた上で、ご入居者お一人おひとりの生活動作能力を把握し過剰な介助介入の予防に努めました。その日その時の体調や生活動作能力の変化に合わせて介助量を変化させるなど臨機応変な対応を行うことが出来ました。
- ・介助方法や介助量に変更が必要であると考えられた場合には、ご入居者の現在の心身の状態に一番適した介助が提供できるよう、その都度、多職種間で話し合いの機会を設けました。
- ・病院で働く作業療法士や訪問といった地域で働く作業療法士など、様々な分野で働く作業療法士の文献や抄録を参考にして知識を深めました。得た知識や情報は特養施設で活かせるように取り組みました。

2. 経営の安定

- ・多職種連携による健康管理の実施、早めの受診を心掛けることにより入院のリスクを軽減させることが出来ました。また入院中の方に関しては、医療機関との連携を密にし、施設での受け入れの可否判断を早めに行うことで入院期間の短縮を図ることが出来ました。
今後は空床発生時の新規ご入居者の情報共有を密にし、スムーズな受け入れができるよう努めていきたいと思えます。

3. 組織の活性化

- ・業務の見直しに力を入れ、業務の改善・効率化を図りました。このことにより少しずつです

が、ご入居者と関わる時間の確保が出来るようになりました。今後はその時間をどのように活用していくかの話し合いを重ねたいと思います。

4. リスクマネジメント

- ・新型コロナウイルス蔓延防止のための対策を繰り返し周知してきました。ご入居者の体調管理や職員への注意喚起を定期的に行い未然に感染の発生を防ぐことができました。
- ・事故防止・再発防止については昨年度に引き続き、各ユニット会議にて発生原因の分析・改善策について話し合いを重ね、ヒューマンエラーによる事故を1つでも減らすよう努めてきました。その結果、骨折事故に関しては昨年度の3分の1の発生件数に抑えることができました。

5. 防災対策

- ・施設全体で行われる防災訓練に参加し、訓練の度に新たな気づきや課題を見つけることができました。また発電機の数を増やし、各ユニットに配置することができ、対応がしやすくなりました。毎月1回の試用運転を行いしっかり管理して参ります

行事

開催月	行事名	実施内容
4月	お花見会	屋外での食事と散策
5月～7月	季節行事	七夕、すいか割り、収穫野菜の調理等
8月	花火	屋外で花火
9月～11月	敬老会（全体） 季節行事	敬老会 サツマイモや栗などの食材を調理等
12月	クリスマス会	クリスマス会、忘年会
1月～3月	季節行事	かるた取り大会、節分豆まき等

※参考資料

(1) 入居利用者の実態

①介護度及び保険者（令和4年3月31日現在）

要介護度		要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	計
総社市	男	0	0	1	6	4	11
	女	0	0	1	15	14	30
	小計	0	0	2	21	18	41
倉敷市	男	0	0	0	0	1	1
	女	0	0	0	2	1	3
	小計	0	0	0	2	2	4
高梁市	男	0	0	0	0	0	0
	女	0	0	0	1	0	1
	小計	0	0	0	0	0	1

井原市	男	0	0	0	0	0	0
	女	0	0	0	0	1	1
	小計	0	0	0	0	1	1
真庭市	男	0	0	0	0	0	0
	女	0	0	0	0	1	1
	小計	0	0	0	0	0	0
吉備中央町	男	0	0	0	0	0	0
	女	0	0	0	1	0	1
	小計	0	0	0	1	0	1
米子市	男	0	0	0	0	0	0
	女	0	0	0	0	1	1
	小計	0	0	0	0	1	1
計	男	0	0	1	6	5	12
	女	0	0	1	19	18	38
合計		0	0	2	25	23	50

① 年齢構成（最高年齢：102歳、最少年齢：64歳、平均年齢：87.9歳）

	～64	65～ 69	70～ 74	75～ 79	80～ 84	85～ 89	90～ 94	95～ 99	100～	計
男性	0	1	2	3	2	2	2	0	0	12
女性	1	0	0	1	4	10	16	4	2	38
合計	1	1	2	4	6	12	18	4	2	50

② 年間の入退所状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
入所	0	1	1	2	2	1	3	1	1	1	1	0
退所	0	1	3	0	3	1	2	2	0	1	1	0

③ 退所理由

長期入院	他施設入所	在宅復帰	死去	(死去の内、施設内での看取り)
2名	0名	0名	12名	(8名)

(2) 稼働状況 (平均稼働率 : 98.1%)

従来型

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
延べ利用者数	1480 (1435)	1550 (1509)	1483 (1468)	1549 (1525)	1489 (1481)	1425 (1420)	1497 (1502)	1465 (1452)	1527 (1458)	1493 (1480)	1392 (1354)	1550 (1523)	1491.6 (1467)
ベッド稼働率	98.7 (95.7)	100 (97.4)	98.9 (97.9)	99.9 (98.4)	96.1 (95.5)	95.0 (94.7)	96.6 (96.9)	97.7 (96.8)	98.5 (94.1)	96.3 (95.5)	99.4 (96.7)	100 (98.3)	98.1 (96.5)

() は令和 2 年度

(3) ショートステイ稼働状況 (平均稼働率 : 78.0%)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
延べ利用者数	437 (506)	248 (529)	488 (440)	445 (526)	474 (518)	511 (519)	535 (532)	509 (510)	514 (560)	547 (519)	489 (476)	495 (541)	474.3 (514)
ベッド稼働率	72.8 (80.5)	40.0 (87.4)	81.3 (85.8)	71.8 (87.7)	76.5 (85.6)	85.2 (80.5)	86.3 (83.1)	84.8 (84.2)	82.9 (76.6)	88.2 (73.4)	87.3 (76.7)	79.8 (90.8)	78.0 (82.7)

() 内は令和 2 年度

(4) 待機者の状況 (※従来型とユニット型両施設希望者も含む。)

保険者	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合計
総社市	3	1	91	92	50	237
倉敷市	0	0	16	10	3	29
岡山市	0	0	2	1	1	4
高梁市	0	0	4	1	1	6
新見市	0	0	0	2	0	2
井原市	0	0	0	2	0	2
真庭市	0	0	2	1	0	3
矢掛町	0	0	1	1	0	2
赤磐市	0	0	1	0	0	1
早島町	0	0	0	0	1	1
吉備中央町	0	0	0	1	0	1
その他	0	0	1	0	0	1
合計	3	1	118	111	56	289

月	行事食	月	行事食
4月	お花見弁当 → 実施	10月	秋行楽弁当 → 中止
5月	デザートバイキング → 中止	11月	そばうち → 中止
6月	大判焼き → 中止	12月	クリスマス弁当 → 実施

7月	かき氷 夏祭り →ミニ夏祭り実施	1月	お正月料理 → 実施 餅つき→中止 ぜんざいなど提供
8月	夏祭り お盆 →ミニ夏祭り実施	2月	握り寿司 巻きずし → 実演なしで握り寿司提供
9月	敬老会行事食 → 実施	3月	ひな祭り寿司 → 実施 実演なしで握り寿司提供

苦情状況

発生日	内容	対応
R3年12月24日	看護職員からの電話依頼の言葉が高圧的であった。	当該看護職員に苦情内容を伝え経緯を確認。ご家族等と対応する場合の口調には注意をするよう指導し、本人も反省。苦情申出者のケアマネジャーに顛末を報告。
R3年12月28日	看護職員から医師の見立てを報告したが、表現が不適切であったこと、及び電話中に他の職員の笑い声が伝わり、ご家族に不快な思いをさせた。	当該看護職員に苦情内容を伝え経緯を確認し、看護会議において、電話連絡などの対応に際しては、言葉遣いなどに十分注意するよう徹底。ご家族には、送迎の際に謝罪した。

2. 特別養護老人ホーム（ユニット型）

ユニット型特養は、稼働率目標 97.5%に対して 96.5%という実績で1年を終えました。5月の新型コロナウイルス感染症のクラスター発生が稼働率を大きく下げたことにより、また入院日数を減らすことができなかつたことにより目標を達成することができませんでした。今後も感染対策を継続しながらより一層、ご入居者の体調管理を行っていきたく思います。また日常生活においては丁寧で細やかな介護を目指し、行事などを通してご入居者に楽しく安全に過ごしていただくことができました。

1. サービスの質の向上

〈ケアマネ・相談員〉

- ・ご入居者の生活歴や各職員が収集した情報を踏まえ、詳細なモニタリングやアセスメントを行うことで、個々に合わせたケアマネジメントに努めました。また、立案したケアプランを多職種で共有し、チームケアの実践に繋げることが出来ました。
- ・コロナ禍でもしっかりと感染対策を徹底し、対面やオンラインでご家族との面会を可能な限り実施することでご入居者にご家族との時間を共有していただくことが出来ました。
- ・ご入居者の状態変化に応じ、ご家族の意向も多職種間で共有・検討したことで、より個別的で適切なサービスが提供出来ました。
- ・ご入居者の尊厳を守るため虐待防止の研修を行い、顕在化しないグレーゾーンの対応や前兆

である不適切ケアについて、職員が自ら気付くきっかけをつくることができました。

〈看護〉

- ・ご入居者お一人おひとりについて、ご家族の思い、他職種からの情報及び医師の治療方針等、看護職員が間に入り様々な情報を調整し、こまめに各関係者との連携を図ることで、ご本人やご家族が望まれる医療を提供することが出来ました。
- ・感染症を理解する上で書籍を資料とし、看護師間で勉強会を行いました。
- ・5月に新型コロナウイルス感染症のクラスターが発生しましたが、事前シュミレーションを行っていたこともあり、施設内感染は最小限に抑えることが出来ました。今後につきましては感染症マニュアルの見直し・検討を行うことで更なる感染予防に努めて参ります。
- ・パソコンでの申し送りを活用することで伝達ミス減少させることが出来ました。

〈介護〉

- ・ご入居者お一人おひとりの詳細な情報を多職種間で共有することで、その日、その時に合ったケアを提供することが出来ました。
- ・今年度は新型コロナウイルスのクラスター発生や、職員の体調不良により、職員の労働環境の悪化や疲弊が見られ、業務を回すことを優先させざるを得ない状況となりました。リーダーは状況を見極め、職員のモチベーション維持や労働環境を改善することに力を注ぎました。今後も業務の見直しを行い、職員の気持ちに余裕が持てることでご入居者の目線に立てる意識づけを促していきたいと思えます。
- ・次期リーダー候補の職員にリーダーとしての考え方やマネジメント方法の勉強会を1年を通して行いました。また、介護職員にはさまざまな場面ですぐに正解の方法を伝えるのではなく自ら考えて実践してみることを促して、人材の育成を図りました。

〈栄養（給食）〉

- ・食事摂取基準をもとに、ご入居者の介護状態及び食事形態を分析・考慮の上、多職種・委託会社と連携しながら献立や食事形態の変更・改善を図ることで個別の対応を行うことが出来ました。
- ・新型コロナウイルス感染状況を考慮し、実施・中止を多職種間で相談し回数・場所の分散、蜜を避ける方法を検討し、お花見弁当・ミニ夏祭り・クリスマス弁当・ぜんざい・お餅のふるまいなど可能な限り実施することが出来ました。
- ・大量調理施設衛生管理マニュアルに沿った衛生指導を徹底し食中毒を防止することが出来ました。

〈機能訓練〉

- ・自立支援を念頭においた上で、ご入居者お一人おひとりの生活動作能力を把握し過剰な介助介入の予防に努めました。その日その時の体調や生活動作能力の変化に合わせて介助量を変化させるなど臨機応変な対応を行うことが出来ました。
- ・介助方法や介助量に変更が必要であると考えられた場合には、ご入居者の現在の心身の状

態に一番適した介助が提供できるよう、その都度、他職種間で話し合いの機会を設けました。

- ・病院で働く作業療法士や訪問といった地域で働く作業療法士など、様々な分野で働く作業療法士の文献や抄録を参考にして知識を深めました。得た知識や情報は特養施設で活かせるように取り組みました。

2. 経営の安定

- ・適切な健康管理を実施してきましたが、年間を通して入院者を減らすことが出来ず、クラスターの発生等もあり体調管理の難しさを感じた1年でした。来年度は多職種や協力病院との連携を一層密にしながら、ご入居者の体調管理を行って参ります。

3. 組織の活性化

- ・業務の見直しに力を入れ、業務の改善・効率化を図りました。このことにより少しずつですが、ご入居者と関わる時間の確保が出来るようになりました。今後はその時間をどのように活用していくかの話し合いを重ねたいと思います。

4. リスクマネジメント

- ・新型コロナウイルス蔓延防止のための対策は繰り返し周知してきましたが、残念ながら5月にクラスター（集団感染）を発生させてしまいました。更なる感染予防対策の強化に努めながら、職員にも定期的に注意喚起を行っていき、その後は感染を未然に防ぐことが出来ました。
- ・事故防止・再発防止については昨年度に引き続き、各ユニット会議にて発生原因の分析・改善策について協議、検討を重ね、ヒューマンエラーによる事故を1つでも減らすよう努めてきました。その結果、骨折事故に関しては発生0に抑えるが出来ました。

5. 防災対策

- ・施設全体で行われる防災訓練に参加し、訓練の度に新たな気づきや課題を見つけることができました。また発電機の数を増やし、各ユニットに配置することができ、対応がしやすくなりました。毎月1回の試用運転を行いしっかり管理して参ります。

行事

開催月	行事名	実施内容
4月	お花見会	屋外での食事と散策
5月～7月	季節行事	七夕、すいか割り、収穫野菜の調理等
8月	花火	屋外で花火
9月～11月	敬老会（全体） 季節行事	敬老会 サツマイモや栗などの食材を調理等
12月	クリスマス会	クリスマス会、忘年会
1月～3月	季節行事	かるた取り大会、節分豆まき等

※参考資料

(1) 入居利用者の実態

①介護度及び保険者（令和4年3月31日現在）

要介護度		要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	計
総社市	男	0	0	0	3	2	5
	女	0	0	5	7	9	21
	小計	0	0	5	10	11	26
岡山市	男	0	0	1	0	0	1
	女	0	0	0	0	0	0
	小計	0	0	1	0	0	1
倉敷市	男	0	0	0	0	1	1
	女	0	0	0	0	1	1
	小計	0	0	0	0	2	2
玉野市	男	0	0	0	0	0	0
	女	0	0	0	0	1	1
	小計	0	0	0	0	1	1
計	男	0	0	1	3	3	7
	女	0	0	5	7	11	23
合計		0	0	6	10	14	30

④ 年齢構成（最高年齢：104歳、最少年齢：67歳、平均年齢：89.8歳）

	～64	65～ 69	70～ 74	75～ 79	80～ 84	85～ 89	90～ 94	95～ 99	100 ～	計
男性	0	1	0	1	0	2	3	0	1	8
女性	0	0	0	1	3	5	6	6	1	22
合計	0	1	0	2	3	7	9	6	2	30

③年間の入退所状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
入所	1	1	3	1	0	1	0	0	1	1	1	1
退所	0	2	2	1	0	1	0	1	0	1	1	2

④退所理由

長期入院	他施設入所	在宅復帰	死去	(死去の内、施設内での看取り)
3名	1名	0名	7名	(3名)

(2) 稼働状況 (平均稼働率 : 96.5%)

ユニット型

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
延べ利用者数	853 (884)	835 (896)	883 (882)	900 (911)	899 (930)	871 (882)	930 (912)	894 (876)	926 (908)	917 (868)	798 (840)	861 (891)	880.5 (890)
ベッド稼働率	94.8 (98.2)	89.8 (96.3)	98.1 (98.0)	96.8 (98.0)	96.7 (100)	96.8 (98.0)	100 (98.1)	99.3 (97.3)	99.6 (97.6)	98.6 (93.3)	95.4 (100)	92.6 (95.8)	96.5 (97.5)

() 内は令和2年度

(3) 待機者の状況 (※従来型とユニット両施設希望者も含む。)

保険者	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
総社市	1	1	41	31	14	88
倉敷市	0	0	7	1	0	8
高梁市	0	0	3	0	0	3
新見市	0	0	0	1	0	1
井原市	0	0	1	0	0	1
早島町	0	0	0	1	0	1
その他	0	0	1	3	0	4
合計	1	1	53	37	14	106

月	行事食	月	行事食
4月	お花見弁当 → 実施	10月	秋行楽弁当 → 中止
5月	デザートバイキング → 中止	11月	そばうち → 中止
6月	大判焼き → 中止	12月	クリスマス弁当 → 実施
7月	かき氷 夏祭り → ミニ夏祭り実施	1月	お正月料理 → 実施 餅つき → 中止 ぜんざいなど提供
8月	夏祭り お盆 → ミニ夏祭り実施	2月	握り寿司 巻きずし → 実演なしで握り寿司提供
9月	敬老会行事食 → 実施	3月	ひな祭り寿司 → 実施 実演なしで握り寿司提供

苦情状況

発生日	内容	対応
なし	なし	なし

3. G&Rデイサービスセンター

コロナ感染予防の対策を徹底した事でデイサービスの職員及びご利用者からの感染は発生しませんでした。5月に特養部門で新型コロナウイルス感染症のクラスターが発生した事により2週間の営業停止を行ったことが影響し、営業再開後も入院者や感染症に対する不安感から休まれる方

が後を絶たず、目標値より大幅に下回る稼働率のまま1年を終えてしまいました。

まずは、今年度も継続して感染予防の対策を徹底し、新型コロナウイルス感染者の発生の防止に努めることを第一とした上で稼働率の向上及び安定した収入を得る為、外部居宅への営業活動を随時行いながら、重度の認知症の方や重度の身体介護が必要な方、医療的管理が必要な方等も出来る限り受け入れることで外部のニーズに沿ったデイサービスの構築と評価の獲得に引き続き精進して参ります。

1. サービスの質の向上

〈相談〉

ご利用中の小さな体調不良でも報告し、ケアの方法から着替えや持ち物に関する事まで幅広く細目にご家族の意向確認を行うと共に、その内容を申し送りや会議等において職員全員で情報を共有した結果、ご家族・ご利用者のニーズに沿ったサービス提供に繋げる事が出来ました。また、その都度ケアマネジャーへの報告や情報の共有・連携を確実にを行う事で、各事業所の意見や考えを聞く機会を多く持つ事が出来ました。さらには、ご利用者・ご家族からのご要望やケアマネジャーからの依頼等に対し、可能な限り対応する姿勢を崩さなかった事で関係構築を図る事が出来たと思います。

〈看護〉

異常時の報告を迅速・詳細に行った事で、必要な処置内容の変更や多職種間での情報共有をスムーズに行う事が出来、在宅生活継続の問題発生に対して積極的にケアプランに沿ったケアが実施出来たと思います。機能訓練では、個々のご利用者に適した計画を作成・実施し、身体機能の把握と適切な運動の提供を行った結果、ご高齢なりにも「動ける体」を維持していただく事が出来ました。

〈介護〉

年間を通してご利用者数が少なかった事もあり、「待つ」事は比較的实施出来ました。しかし、ご利用者の動作を待たず職員が介助してしまう場面もあった為、ご利用者の残存機能維持の妨げとならないよう継続して留意していく必要があります。「見る・聴く」事に関しても、ご利用者の身体的異常の早期発見や、若い頃の話や好きな物の話等を多く聞く事が出来ました。ご利用者をご自分で話されることから、本人の能動的な行動を引き出すことが出来た事案もありましたが、充分とは言えないと感じている為、来年度はよりご利用者の意欲向上に繋がられる様努めて参ります。

2. 経営の安定

振り替え利用や追加利用、新規利用者の受け入れ等、随時行って参りましたが、稼働率の回復は叶いませんでした。しかし、外部居宅からの新規利用者の引き合いが多く、また、「グリーンアンドリバーホームのデイサービスなら何とかしてくれる」「デイサービスを探していた家族が居たので、グリーンさんを紹介しました」等のお言葉を頂く等、ケアマネジャーとの関係構築が出来ていると実感出来た一年でもありました。可能な限り受け入れを行う姿勢は崩さず、更に営

業に力を入れる事で、来年度は稼働率の高位維持達成を目指して精進して参ります。

3. 組織の活性化

収集した情報は、反省会やデイ会議等にて職員間で共有及び検討を図る事で、一貫したサービスの提供を実施しました。また、現場リーダーを配置した事で情報の集約や変更事項の追跡、チームとしての機能等、より活性化したと思います。しかし、職員間で認識のズレが生じている事柄もあった為、原因の追究及び必要箇所の改善に取り組み、意識と業務の標準化を今後も継続して行って参ります。

4. リスクマネジメント

交通事故予防については、朝礼時に安全運転実施に対する注意喚起を行うと共に、各職員の運転技術を考慮した送迎配慮を行いましたが、1件の接触事故が発生してしまいました。来年度は無事故で終える事が出来るよう努めて参ります。また、感染症対策においては、手洗いや手指消毒、物品の管理・消毒、アクリルボードの設置、インカムの使用等徹底した実施を行い、新型コロナウイルス感染症予防対策を徹底しました。併せて、職員へも新型コロナウイルスに感染しない・持たさない為の注意喚起を定期的に行い、感染者が発生する事はありませんでした。

介護事故発生防止については、ヒヤリハット報告書が提出された際、発生原因を徹底的に追及し、確実に実行できる改善策の策定と実施に努めました。また、デイ会議ではヒヤリハットの振り返りを行い、改善策実施の確認及び改善策の修正を図りながら再発防止に努めた結果、事故発生はありませんでした。

5. 防災対策

施設全体で行われる火災を想定した避難訓練に参加しました。実際に火災が発生した場合を想定しながら避難経路等を自分達で考える事で、多くの気づきを得る事が出来ました。

行事

開催月	行事名	実施内容
4月	世界に一つだけの花	フラワーアレンジメント
5月	うどん作り	コロナ感染症の為中止
6月	映画鑑賞	コロナ感染症の為中止
7月	皆で咲かせた朝顔	朝顔（壁画）作り
8月	G&R ツアーズ「バスガイドは〇〇でございま〜す」	パワーポイントを活用したバーチャル旅行体験
9月	清音 2021 グリンピック！	オリンピックを連想させる個人競技・団体競技
10月	グリリバ焼き、焼いちゃいました	陶芸
11月	どっちのリースで Show	和風・洋風のリース作り
12月	あの頃私は若かった	人生や様々な経験を振り返り、「あの頃の自分」にメッセージを送る
1月	2022年 副を呼び込んで運試し	新年会を開催し職員による余興やビンゴゲーム

	だ！	を楽しむ
2月	節分	豆まき
3月	運氣向上♪ 幸せだるまを作ろう	「いわれがある色」を選択し張り子のだるま作り

苦情状況

発生月日	内容	対応
なし	なし	なし

4. 居宅介護支援事業所

今年度は稼働率 100%を達成出来るよう、新規受け入れを行いながら介護支援専門としての資質向上を図る為の勉強会を計画していましたが、令和3年4月に職員1名が地域包括支援センターから異動があり、その月の下旬には当法人内で新型コロナウイルス感染症のクラスターが発生したことで思うようにケアマネジメントが出来ず、高位での件数維持や勉強会の実施が叶いませんでした。件数を高位で維持することは出来ませんでした。算定できる加算については必ず取得出来るよう業務を行いました。

1. サービスの質の向上

介護報酬改定により業務で行わなければならないことや、ケアプランの書式の変更等について介護支援専門員協会から発信される情報を確認し、部署内での情報共有を目的とした勉強会を行うことで、各自が理解を深めることが出来ました。また外部で行われる研修会については、オンラインツールの活用により職員が理解を深めたい分野への研修会に参加することができ、知識の向上に繋がりました。また各自が参加した研修会の内容については連絡会を行うことで、研修会に参加していない職員にも知識を伝達することが出来ました。

対人援助につきましてはご家族や各事業所等相手の立場や気持ちを想像し、迅速な対応や気遣いのある情報提供を行うことで当事業所への信頼を獲得できるよう努めました。

2. 経営の安定

持ち件数の変動や担当ケースの状況を細目に確認し、早めに新規の受け入れを行ったことで給付管理数が大幅に減ることなく推移しましたが、職員の異動による引継ぎや施設でのクラスター発生での対応に追われ新規利用者の受け入れが思うように出来ず、満足いく結果にはなりませんでした。

3. 組織の活性化

当法人内で新型コロナウイルス感染症のクラスター発生により月に一度の居宅ミーティングが開催できない時がありましたが、そのような場合でも部署内で検討しなければならないことや職員が抱えるケースで苦慮していることは随時発生します。環境や時間等工夫しながら都度、検討・助言等を行い、課題や問題の解決に努めた結果、職員が1人で抱え込み過ぎること

なく業務を行うことが出来ました。

4. リスクマネジメント

- ・4月に介護報酬改定があり、各サービス事業所の加算内容に変更が多くありました。加算内容の変更については書面で送られて来るが多かった為、不明な点や疑問点があればその都度各事業所に問い合わせ、確認することで間違いなく給付管理や請求業務を行った為、ミスなく1年を終えることが出来ました。
- ・6月に介護支援専門員倫理要領について変更がありました。倫理要領（解説）の変更点について職員間で情報共有し、確認を行うことで自立支援のプログラムの展開する視点の重要性の大切さを改めて認識することが出来ました。また、接遇の向上を図る為、各種書籍を用いて勉強会を開催しました。事例を元に介護支援専門員としてどのように捉え対応するかを考え、その内容について職員間で検討し対応方法などを導き出した結果、クレームや大きなトラブルが発生することはありませんでした。
- ・ご利用者に関する個人情報の取り扱いやその他の書類・資料等の管理について定期的に注意喚起や整理整頓を行うことで情報漏洩、紛失や間違いの発生を防ぐことが出来ました。

5. 防災対策

- ・施設内で行われる避難訓練や感染症等の研修会に参加し、当法人内での災害時における初期対応や避難援助が出来るよう知識の習得や技術の向上に努めました。またそのことを踏まえて介護支援専門員としての防災対策について改めて資料を用いて勉強会を行い、ご利用者及びご家族に発信できるよう情報の習得に努めました。
- ・新型コロナウイルス感染症の感染状況に応じて、部署内での感染対策についてその都度検討し、持ち込まない・持ち出さないよう努めました。また介護支援専門員として新型コロナウイルス感染症発生時における業務継続計画についての情報収集を行い、資料等を集め、BCP策定に向けて準備を進めました。

苦情状況

発生日	内容	対応
令和4年2月21日	利用している訪問看護との連携やサービス利用開始等なかなかスムーズに動いてもらえない。使えるまで時間が掛かり疑問を感じる。担当ケアマネを替えたい。	担当ケアマネより直接家族に連絡し、不快な思いをさせたことについてを謝罪をした。他居宅への変更を希望されたので調整し、家族の了解を得て3/1に同行訪問、担当引き継ぎし、同日市役所に居宅変更の届出を行った。

5. ケアハウス

去年に引き続き新型コロナウイルス感染症の流行に悩まされた1年でしたが、感染予防対策を徹底して行った甲斐があり、ケアハウス内で新型コロナウイルス感染者は発生しませんでした。しかし、外出や面会等の活動制限を設けざるを得ず、そのために発生するご入居者のスト

レス緩和や、ご入居者への楽しみの提供のため、様々な取り組みを行い、制限がある中でも少しでも生活を充実して頂ける様努めてきました。運動に関しては百歳体操のみの提供となり、ご入居者の下肢筋力低下が心配されましたが、複数の新しいご入居者があったこともあり、ご入居者同士と一緒に散歩や会話される様子も見られています。交流する場が増える事により、感染する可能性も高くなる為、今後もマスク着用・手指消毒などの新型コロナウイルス感染対策を行い、安全にサービスを提供して参りたいと思います。

1. サービスの質の向上

〈相談〉

ご入居者の心身の状態を把握し、体調変化等がある場合はすぐにご家族へ連絡を行い適切な医療を受けて頂くことが出来ました。また介護保険等に関してはケアマネジャーやその他関係機関へ報告、連絡、相談を行うことによりご入居者の状態に合ったサービス体制を構築することが出来ました。また、ご入居者の自立支援と楽しみの獲得を目的として移動スーパーの誘致に取り組みました。現在週1回の火曜日に定期来所いただけており、ご入居者が並んで移動スーパーの来所を待つ姿が見られています。

〈介護〉

生活面に置いて、ご入居者の中には個別の希望やこだわりを訴える方も多いため、施設として出来ることと出来ない事の選別や、やむを得ず施設側が行う場合の根拠を明確にする等、公平性をしっかり検討し、可能な限り平等なサービス提供に努めました。また、新型コロナウイルス感染症流行による制限のある中でも、ご入居者に出来る限り楽しんでいただけるような行事を企画・実施しました。強制せず任意での参加を呼び掛けたところ、参加者は少数ではありましたが、ニーズにあった楽しみを得ていただけたと思います。毎週行っている百歳体操については、ご入居者に筋力低下に対する危機感の自覚がある為、毎回多くのご入居者が参加されており、最低限の運動の機会は図れたと思います。

2. 経営の安定

ご入居者の健康状態に異常等がある場合は、速やかにご家族へ連絡を行うことで適切な医療を受けて頂くことに努めた結果、入院や状態悪化による退去を避けることができ、可能な限り空床を失くすことが出来ました。また、二人部屋を個室に改造する工事を行い、工事以降は満床を継続することが出来ています。営業活動としては、地域包括、居宅へのパンフレットの郵送や待機状況などのアナウンスを行うことで情報の発信を行ったところ、数件の申込者の問い合わせを得ることが出来ました。今後も出来る限り空床がない様ご入居者の状態把握、退去時のタイミング調整、次期入居者様の確保に努めて参りたいと思います。

3. 組織の活性化

職員間での情報共有として口頭のみだけでなく、当日の出来事や翌日以降の予定を記録する日課帳を使用することにより、職員間での情報共有を行いました。また他部署、宿直者への情報伝達として連絡調整会議などで情報を発信することでより連携、協力を得られることが出来

ました。来年度からはケアハウス内で定期会議を行うことで、更に職員間での情報共有、意識統一を図ることが出来るよう努めていきたいと思ひます。

4. リスクマネジメント

ご入居時、必ずご入居者の薬剂情報を確認し、全ご入居者の内服中の薬を一覧表にすることで、誰が見てもご入居者が服用している薬が把握できるようにしています。また、新しく薬が追加、変更された場合は必ず更新するように対応しており、誤薬や飲み忘れの発生はありませんでした。昨年に引き続き新型コロナウイルス感染症対策としてマスクの着用、ご家族との面会禁止、県外への往来禁止など制限を設けており、新型コロナウイルス感染者は発生しませんでした。転倒等怪我については、昨年度は転倒事故3件ありましたが、いずれも当該入居者の心身機能の低下によるものでした。今後もできる限りの予防策を講じていきたいと思ひます。

5. 防災対策

今年度は訓練を3回実施予定でしたが、コロナ禍の為地震想定訓練は実施出来ませんでした。火災想定訓練については、今年度は訓練日、避難方法を事前に説明を行い2回実施したところ、訓練だからと避難しなかったご入居者や理解できなかったご入居者も居られる状態でした。今後は訓練への参加を通じて有事の際には全員無事に避難できるよう、課題解決に努めていく必要があると考えています。

(1) 入居者の実態

① 要介護度及び保険者（令和4年3月末現在）

	自立	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
総社市	4	2	4	1	0	1	0	0	12
岡山市	0	0	0	1	0	0	0	0	1
津山市	0	0	1	0	0	0	0	0	1

② 年齢構成（最高年齢：97歳、最少年齢：71歳、平均年齢：83.7歳）（令和4年3月末現在）

性別	～64	65～69	70～74	75～79	80～84	85～89	90～	合計
男性	0	0	2	0	1	1	0	4
女性	0	0	1	2	2	1	4	10

③ 在籍年数（平均2年7か月）（令和4年3月末現在）

年数	1年未満	1年以上～ 3年未満	3年以上～ 5年未満	5年以上～ 8年未満	8年以上～ 10年未満	10年以上
人数	7	2	1	3	0	1

④ 入退居状況

退居者数 12名（長期入院：3名、他施設入所：7名、死亡退去：2名）

入居者数 12名

(2) 懇談会開催状況

開催日	懇談内容	出席者数	出席職員数
令和3年9月23日(木)	みんなでSTOP 生活不活発病	9名	3名
令和3年12月13日(月)	ノロウイルス感染症	9名	5名

※6月に予定していた懇談会はコロナの為、中止。令和4年3月予定していた懇談会は4月に延期。

(3) 行事活動実施状況

実施月	実施内容
4月	エンドウ収穫、おやつ作り(パンケーキ)
5月	壁面飾り制作、えんどう収穫
6月	芋の畑作り、芋植え、花植え、スイーツビュッフェ
7月	貼り絵、壁面飾り制作
8月	壁面飾り制作、フレイルについての勉強会、貼り絵
9月	お茶会、貼り絵、敬老会花作り、おやつ(栗)提供
10月	ペーパークラフト(りんご)、さんま炭火焼き
11月	紅葉ドライブ、おやつ(たこやき)提供、移動スーパー利用開始、芋ほり、土作り
12月	おやつ(芋)提供、えんどう種まき、ペーパークラフト(洋梨)、正月リース作り おやつ(クリスマスケーキ)提供、忘年会、畑作り
1月	新年会、おやつ(芋)提供、
2月	握り寿司、ちぎり絵
3月	紅白花作り、すき焼き

※レクリエーション：週1回、百歳体操：週1回、買い物：月1回、習字：月1回

(4) 苦情状況

発生月日	内容	対応
なし	なし	なし

6. 地域包括支援センター

昨年度に引き続き新型コロナウイルス感染症の流行のため、対面での研修や会議に制限がある中での1年となりました。そのような状況の中でしたがウェブ会議システムなどを活用し、研修会への参加や会議の開催を行っていく工夫をしてきました。また、訪問活動については感染症対策を行い、外出機会の減っている高齢者が閉じこもりとならないよう声掛けや状況把握に努めました。全世代型地域包括ケアシステムについては行政、社会福祉協議会、地域住民の方々と相談をしながらどのような形で進めていくのか考えていく一年となりました。これまでの高齢者分野だけでなく、障がい者や子どもなどについての課題をどのようにキャッチし、解決に向けて支援をしていくのか今後も各関係機関、団体と協働し考えて参ります。

1. サービスの質の向上

研修会に積極的に参加をし、新たな知識の習得を図るとともに他職種や他事業所の方と顔の見える関係づくりをしていくことが出来ました。関係構築ができたことで、困難事例やケースへ多職種協働での対応が円滑に行えるようになりました。今後も高齢者に限らず全世代の課題に対応していくために多職種間の連携がより円滑かつ効果的に行えるよう自己研鑽と関係構築に努めてまいります。

2. 経営の安定

コロナ禍のため実態把握事業や予防教室事業の件数が減少となってしまったため減収となりましたが、介護保険事業については予防支援計画件数が大幅増となりました。増収とはなりません。利用者ニーズに対応していくことが出来るよう、担当件数の調整を随時行いながら業務配分を行ったことでより効率的かつ細やかな対応が出来ました。

3. 組織の活性化

まん延防止措置の発出など会議の開催できない時期を除いて月に一度はミーティングの時間を設け意見交換が出来るように努めました。また、普段から職員間でのコミュニケーションを密に行うことに努め、各職員の考えを業務に反映することが出来ました。

4. リスクマネジメント

今年度は実地指導もあり、必要書類の確認や記録の整備を行うことが出来ました。制度改正により感染症対策やハラスメント防止対策、BCPの策定など新たに取り組んでいくべき事項については法人本部と相談をしながら対応することが出来ています。

5. 防災対策

昨年度までに引き続き法人内での避難訓練への参加を行い平時から防災意識を持つことの重要性を各職員が感じる事が出来ました。また、地域住民の方、行政機関と協力をしながら災害時の要配慮者の把握に努めることが出来ました。

苦情状況

発生日	内容	対応
R3.12.23	相談対応への不満	管理者より謝罪の連絡と相談対応を行った